

2012年度 活動報告

フューチャー イノベーション フォーラム



表紙について

この作品は、アートユニットuwabamiが2011年8月に宮城県仙台市で開催した復興支援企画展の様子をライブペイントで描いたものです。2012年11月にリニューアルした公式サイトトップページにも採用しています。

Contents

FIF 特別鼎談	2
FIF について	4
2012年度活動報告	6
会員企業向け企画	
■ アドバイザリーボードインタビュー「Future Wind」	6
■ イノベーションワークショップ2012	7
■ イノベーションセミナー2012	11
キッズ企画	
■ 社会の最前線	12
首都高の最前線	13
物流の最前線	14
エネルギーの最前線	15
アンケート結果	16
■ ITらぼ	18
子ども向け学習コンテンツ	18
■ 5年後の追跡アンケート調査	19
復興支援活動「スマイルプロジェクト」	
石巻ボランティア	21
講演会・交流会	22
NPO法人運営支援	22
イベント運営協力「東京へようこそ! 1泊2日ツアー」	22
ホームページリニューアル & facebookページ開設	23
プレスクリッピング集	24



フューチャー イノベーション フォーラム

特別鼎談



フューチャー イノベーション フォーラム代表による新春恒例の特別鼎談。

今回は楽天の三木谷浩史会長を迎えて、2012年を振り返りながら、2013年の展望と課題を語っていただきました。

ウシオ電機株式会社
代表取締役会長 FIF代表

フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役会長兼社長 FIF代表

楽天株式会社
代表取締役会長兼社長

牛尾 治朗 × 金丸 恭文 × 三木谷 浩史

国際競争力の強化を

金丸 2012年は年末に民主党から自民党へ政権が交代しました。為替は円安が進み、株価も上昇してグローバル企業にとって良い環境ができつつあります。2013年をどのように見えていますか？

牛尾 円安により短期的に企業の業績は良くなるかもしれませんが、楽観視はできません。日本では安倍政権の経済重視の政策が市場に歓迎され、株価が上がったと報じられていますが、世界的に見れば、株式市場は金融主導による株高傾向にあります。欧州経済は落ち着いたように見えるものの、実際にはギリシャは今でも失業率が20数%と高く、経済の実体はほとんど改善されていません。

金丸 ただ昨年と比べると、経営者の心理は大きく変わりました。明るい兆しを感じているようです。

三木谷 日本経済を再生させるにはもちろん政府主導による景気対策が必要ですが、それよりもコーポレート・ガバナンスの問題が大きいように思います。

金丸 具体的にはどういうことでしょうか？

三木谷 たとえば日本の企業の開業率は4%で、10%を超える米国や英国に比べると極めて低く、同様に廃

業率も4%台と他国より低い。これは企業の新陳代謝があまり進んでいないことを意味します。日本には企業が淘汰される仕組みがないため、事実上経営破綻しているのに国の支援策で生き残っている企業も少なくありません。日本企業がグローバルで勝ち残っていくためには、国際競争にもっとさらされなければなりません。

新しいビジネスを生み出す

金丸 グローバル競争を勝ち抜くうえで、日本企業には何が足りないと思いますか？

三木谷 日本の技術力は非常に高いのですが、新しいビジネスモデルを考える力が劣っていると強く感じます。最終製品をつくったら終わりではなく、製品にサービスやコンテンツを一体化させて新たな魅力をつくり、独自のビジネスモデルを確立することが必要です。その代表例がアップル社のiPhoneやiPadではないでしょうか。

牛尾 そうですね。利用者がどのような使い方、遊び方をするかによってフォーカスし、ソフトを中心にハードまで創り上げた。この発想が成功につながったのだと思

います。

金丸 またアップルは自社工場を持つことへのこだわりがありません。部材ごとに世界各地の工場に製造を委託し、自分たちはアイデアを出すことに専念している。そうして革新的な製品やサービスを次々と生み出し、唯一無二の存在となっています。我々も学ばなければいけません。

牛尾 スマートフォンの登場によって、デジタルカメラやテレビが売れなくなりました。もはや単一の機能しかない製品の時代は終わり、ハードとソフトを組み合わせた複合サービスが求められています。これは長年培ってきた高度な技術とノウハウをもつ日本にとって、ビジネスチャンスです。たとえば新幹線は車両と運行システムを融合させたビジネスとして海外展開が大きく期待されています。日本経済の再生のカギを握っているのです。

金丸 国際標準となる仕組みや規格づくりに早い段階から参画して、自分たちに不利にならないようにすることも大切です。日本は過去に何度も苦い経験をしてきました。国が戦略的に動く必要があります。

牛尾 国は旧態依然とした考えのままで、狭い範囲でしか物事をとらえていません。国の役割は5年、10年というスパンで日本が生き残るための戦略を立てることです。日本が闘う舞台は世界です。世界のマーケットを考えることなく、経済政策を語ることはできません。

三木谷 英国では中央銀行の次期総裁に、カナダ中央銀行の総裁が指名されました。300年以上続く歴史で、外国人が総裁に就くのは初めてだそうです。世界では国家のトップ人材のグローバル化さえ進んでいます。日本もそのぐらいの発想の転換があていいでしょ。

“考える力”を育てる

金丸 昨年秋にデンマークの小中学校を視察したのですが、驚いたことに、暗記力を問う試験はいっさい行われていませんでした。パソコンで検索すればすぐ答えがわかるから覚えても意味がない。それよりも“考える力”を育てる教育へシフトしていると聞きました。資源のない日本は人材こそ資源です。発想力を鍛える教育を目指すべきです。

牛尾 そうですね。本来教育の目的とは、国や地域に貢献できる人を育てることです。今こそ子どもたちが論理的な思考で徹底的に考え抜き、自力で答えを見出せる力を伸ばす教育をすべきでしょう。それがグローバルで通用する人材を育てる第一歩だといえます。

三木谷 また若いうちから政治に関心を持ち、政治や政策についてもっと自由に議論してほしい。インターネットを使った選挙運動の解禁はその近道だと思います。

牛尾 昨今、ハンガリー政府が子どもをもつ親に対し、未成年の子ども数だけ追加で投票権を与える「ドメイン投票法」の採用を検討し、たいへん話題になりました。

金丸 間接的に子どもたちにも選挙権を与えるという発想は、画期的ですね。

牛尾 そこには若者の意見を政策に反映させたいという狙いがあります。少子高齢化が加速する日本では長年、選挙で多くの票を投ずる高齢者に有利な政策が取られてきました。その結果、多額の借金を子どもの世代に負わせることになってしまった。もっと若者の声に耳を傾け、意思を尊重しようではありませんか。若い人たちが未来に希望をもてる社会を実現しなければなりません。

(2013年1月23日実施、文中敬称略)

文責:Future Innovation Forum



三木谷 浩史 (みきたにひろし)

一橋大学商学部卒。1988年日本興業銀行入行。米ハーバード大学MBA取得後、97年エム・ディー・エム(現楽天)設立。新経済連盟代表理事。産業競争力会議民間議員。



牛尾 治朗 (うしおじろう)

東京大学法学部卒。1953年東京銀行入行。64年ウシオ電機設立。経済同友会代表幹事、経済財政諮問会議議員などを歴任。日本生産性本部会長。経済同友会特別顧問(終身幹事)。



金丸 恭文 (かねまるやすふみ)

神戸大学工学部卒。1979年TKC入社。89年フューチャーステムコンサルティング(現フューチャー・アークテクト)設立。規制改革会議委員。高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部本部員。

FIFについて

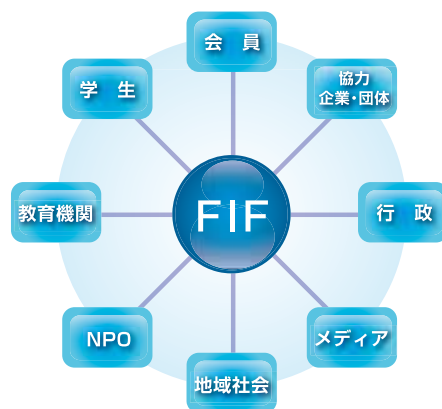
フューチャー イノベーション フォーラム(略称:F I F)は、フューチャーアーキテクト株式会社が運営する社会貢献活動団体です。約700の協力企業・団体の社員を中心とした会員組織で、会員数は約1,250名(2012年12月末現在)にのびります。2006年1月の発足以来、多くの企業と協力しながら子ども向けの職業体験イベントや会員向けのワークショップ、セミナーなどを開催しています。

設立趣旨

F I Fは“ITイノベーションによる豊かな社会づくり”を目的に設立されました。活力ある社会を築くには、これまでの延長線上にはない変革を起こすことが不可欠です。F I Fは変革の担い手となる次世代リーダー育成の場となるべく、ビジネスパーソンや子どもたちを対象に活動しています。

🔑 キーコンセプト

イノベーションで人と社会を豊かに



アドバイザリーボード

F I Fは各界でご活躍のトップの方々をアドバイザリーボードに招いて年に一度会合を開き、活動に対して意見やアドバイスをいただいています。ボードメンバーは以下のとおりです。

明石 勝也	聖マリアンナ医科大学 理事長
伊藤 元重	東京大学大学院 経済学研究科 教授
牛尾 治朗	ウシオ電機株式会社 代表取締役会長
金丸 恭文	フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長兼社長
川本 裕子	早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授
栗和田 榮一	佐川急便株式会社 会長
小島 順彦	三菱商事株式会社 取締役会長
鈴木 茂晴	株式会社大和証券グループ本社 取締役会長
張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長
中西 勝則	株式会社静岡銀行 代表取締役頭取
新浪 剛史	株式会社ローソン 代表取締役社長CEO
藤沢 久美	シンクタンク・ソフィアバンク 副代表
藤森 義明	株式会社LIXILグループ 取締役 代表執行役社長兼CEO
増田 宗昭	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長兼CEO
三木谷 浩史	楽天株式会社 代表取締役会長兼社長
渡 文明	JXホールディングス株式会社 相談役 (2012年12月末現在 氏名50音順敬称略)



アドバイザリーボードミーティングにて(2012年4月)

活動内容

FIFの活動は大きく「会員企業向け」と「キッズ向け」があります。会員企業向けは最新のビジネステーマを取り上げてワークショップやセミナーを開催しており、キッズ向けは子どもたちの「学ぶ」「楽しむ」「ワクワク感」を大切にしたい体験型プログラムを企画・運営しています。このほか東日本大震災直後から継続して復興支援活動を行っています。

次世代リーダーを育成し、子どもたちの創造力や可能性を広げることが、FIFの使命です。

会員企業向け企画

次世代リーダーを育成し 日本の未来に活力を!

Future Wind

アドバイザーボードの皆様意見を会員に発信し、コミュニケーション促進を図る

ワークショップ、セミナー

様々な業種・業界から次世代リーダーが集い、知識の共有と交流を深める

キッズ企画

未来を担う子どもたちの 夢・可能性を広げよう!

社会の最前線

働くことの楽しさややりがいを体感し、未来を支えるカッコイイ大人になろう!

ITらぼ

ITのおもしろさや可能性を体感し、イノベーションを生み出す大人になろう!

復興支援活動

子どもたちの笑顔で 東北を元気に!

子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごし、その笑顔で周りの大人にも元気になってもらいたい

スマイルプロジェクト 石巻ボランティア

新企画

石巻市の仮設住宅で暮らす子どもたちの心のケアを目的にレクリエーション活動を実施

2012年度の活動実績

2012年度は年間を通じて以下の活動を行ったほか、ニュースリリース配信やホームページのリニューアル、facebookのページ開設など情報発信にも積極的に取り組みました。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全体	全体	1/11 特別鼎談	2/2 facebook ページ開設		4/25 11年度 活動報告書 発行							11/1 FIFサイト リニューアル		
	会員企業	Future Wind			★ 第9号発行								★ 第10号発行	
		ワークショップ						新シリーズ 7/24 第1回		9/20 第2回	10/25 第3回			
		セミナー												2013年 2/4 ★
キッズ	社会の最前線			3/27 首都高の 最前線	3/28 物流の 最前線			7/27 エネルギーの 最前線	8/20 イベント運営協力 「東京へようこそ!」	1泊2日ツアー				
	ITらぼ			学習コンテンツ	★ 第3弾公開									
復興支援	石巻ボランティア		月1回実施 (計9回のべ17日)	3/30								11/24		
	講演会 NPO支援	NPO 運営支援 1/19	講演会 NPO 運営支援 2/16	講演会 2/21				8/27 講演会	8/30 交流会	10/12 物産展	11/16 NPO 運営支援	12/19 交流会		

アドバイザーボード インタビュー「Future Wind」

「Future Wind」はアドバイザーボードの皆様へのインタビューを掲載した冊子です。2009年の創刊以来、ボードメンバーの方々の幼少期のお話やこれまでの経験、トップとしての考えなどが伺えると、会員の皆様に好評です。2012年度に発行した各号のメッセージを紹介します。

テーマ | 今の時代だからこそ求められるリーダー像

第9号 | 佐川急便株式会社 会長 栗和田 榮一 様

- 「うそをつくな」「人に迷惑をかけるな」「人に頼られる人間になれ」「人を裏切るな」という母の教えを、いまでも大切にしている。
- 保守的にならないこと。仕事に幅や広がりを持たせ、失敗を恐れず、新しいことに挑戦してほしい。
- 目標を持つことで上を目指す気持ちがわき、人は伸びてゆく。あきらめたら終わり。常に高い目標と向上心を持ち続けることが大切。
- イベントで子どもたちの真剣な表情や笑顔を見るのが楽しみ。未来を担う子どもたちが誇りと自信を持って生きられる国にしたい。

発行:2012年4月



第10号 | 株式会社ローソン 社長CEO 新浪 剛史 様

- リーダーとは率先垂範であるべき。
- リーダーはcold(=冷静さ)とwarm(=温かさ)を併せ持つことが必要。coldな意思決定をしつつも人間的にはwarmな部分を持ち併せなければ、人はついてこない。
- 自分の思いや考えはなるべく直接自分で伝え、伝えたいことをシンプルに語るということが、リーダーと部下の信頼関係を築く第一歩。
- リーダーの役割はメンバーを鼓舞すること。また、部下を育成するには「責任を持ってやらせる」ことが一番重要。

発行:2012年11月



バックナンバー

※社名・団体名、役職は発行当時

- | | | |
|------|---------------------------|---------|
| ◆創刊号 | フューチャーアーキテクト株式会社CEO/FIF代表 | 金丸 恭文 |
| ◆第2号 | 新日本石油株式会社 会長 | 渡 文明 様 |
| ◆第3号 | 株式会社大和証券グループ本社 社長CEO | 鈴木 茂晴 様 |
| ◆第4号 | 三菱商事株式会社 社長 | 小島 順彦 様 |
| ◆第5号 | 早稲田大学 総長 | 白井 克彦 様 |
| ◆第6号 | 株式会社静岡銀行 頭取 | 中西 勝則 様 |
| ◆第7号 | 早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授 | 川本 裕子 様 |
| ◆第8号 | トヨタ自動車株式会社 会長 | 張 富士夫 様 |



イノベーション ワークショップ2012

次世代リーダーの育成と会員同士の交流を深める場としてワークショップを開催しています。新シリーズではITが経営に与えるインパクトとリアルタイム経営の実現について検証しました。またグループディスカッションでは、参加者が各企業のビジネスにおいてITをどのように役立てられるかを活発に議論しました。全3回開催。

シリーズ
テーマ

IT先進事例 ～ITで切り拓く未来

■ 参加企業

株式会社アコーディア・ゴルフ
味の素株式会社
インヴァスト証券株式会社
ウシオ電機株式会社
王子ビジネスセンター株式会社
株式会社外為どっとコム
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
キッコーマンビジネスサービス株式会社
キュービーネット株式会社
コマツ(株式会社小松製作所)
佐川急便株式会社
佐川グローバルロジスティクス株式会社
サッポログループマネジメント株式会社
JX日鉱日石エネルギー株式会社
J.フロントリテイリング株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社静岡銀行
株式会社常陽銀行
ゼビオ株式会社
株式会社千趣会

全日本空輸株式会社
総合警備保障株式会社
ソフトバンクテレコム株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社
株式会社高島屋
株式会社千葉銀行
株式会社ティーガイア
株式会社日建設計
日本たばこ産業株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ベネッセコーポレーション
三井不動産株式会社
三菱UFJニコス株式会社
株式会社ヤクルト本社
郵便局株式会社
株式会社ユニテッドアローズ
楽天株式会社
株式会社LIXILグループ
株式会社ローソン
(計39社、社名50音順)

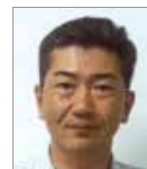
■ 開催実績 (日時、テーマ、講師 ※社名、役職は開催当時)

【第1回】 2012年7月24日(火) 18:00～19:45
「1000倍の高速化で海外マネーを呼び込む」
株式会社東京証券取引所
IT 開発部 トレーディングシステム部長



宇治 浩明 様

【第2回】 2012年9月20日(木) 17:30～19:45
「企業内SNSや検索エンジンの活用等による情報共有の推進」
味の素株式会社 情報企画部 専任部長



益田 瑞文 様

【第3回】 2012年10月25日(木) 17:30～19:45
「店舗指導員業務の標準化・効率化」
株式会社ローソン
ITステーション コーポレートシステム マネジャー



木曾 昌志 様

■ 講演概要

東京証券取引所の市場環境は1999年に立会場が閉場し、全取引がシステムによる売買へと切り替わったことで激変した。ITの処理性能やネットワーク性能の劇的な向上により、取引の主流は電話注文からオンライン注文へとシフトし、システムの「高速性」「安定性」「信頼性」などが取引所の評価尺度に加わった。

東証の次世代株式売買システムarrowheadの開発構想は、2005年末と2006年初に発生したシステム障害の経験と、アルゴリズムによる高頻度取引を行う投資家やその速さに対応する取引所が世界に台頭してきたことから生まれた。arrowheadは「Challenge“10”msec!」をスローガンに、注文受付レスポンスを10ミリ秒以下で行う世界最高水準の「高速性」と99.999%以上の可用性を実現する「信頼性」の2つを大きな目標に掲げ、国際的な市場競争力の向上を目指した。

開発は約3年間、600名近い体制で臨んだ。定義した要件要素を設計書やテスト項目にまでリンクさせる「要件トレーサビリティ」や、アウトプットである設計書やプログラムの不具合を管理、評価しながら各々のインプットである要件定義書や設計書の品質向上をはかる「フィードバック型V字モデル」を実行し、システム完成まで地道に泥臭く戦った。

arrowheadは2010年1月に稼働し、注文受付レスポンスを従来の2~3秒から、2ミリ秒へと1,000倍高速化させた。また取引所と投資者間の注文伝達速度をあげるべく「コロケーションサービス」という新しいビジネスモデルも導入し、最新ITを駆使してコンピュータがコンピュータに発注をかける取引にも対応した。こうした取り組みを経て、海外投資家を東京市場に呼び込むことに成功した。さらに2012年7月には最新サーバーの導入により、注文受付レスポンスが2ミリ秒から1ミリ秒を切るマイクロ秒単位の取引を実現した。

東証ではITの力で「スピード」という障壁を乗り越えビジネスの変革を行ったが、ITの進化はあらゆるビジネスで未来を切り拓く可能性を生み出している。



■ 参加者の声

- プロジェクト成功例として各プロセスの要点がよくわかりました。
- 本講義のシステム構築の話は目から鱗でした。上流工程をしっかりと実施しないと、単体テスト・結合テストで戻りがあり、結局本番リリースまで時間がかかってしまいますが、現実にはなかなかできていません。非常に貴重なお話をありがとうございました。
- プロジェクトの進め方に共感できる部分が多々ありました。
- 処理時間の短縮やシステム構築におけるプロジェクト推進方法、情報の取り扱いなど非常に参考になりました。
- 新技術の取り込みについてのチャレンジには感心するしかありません。
- 業務要件がシステムに反映されないケースが多いので、フィードバック型V字モデルの考え方は参考になりました。
- 異業種のIT部門の方との意見交換・交流の場として、非常に貴重な機会だと思います。



第2回

企業内SNSや検索エンジンの活用等による情報共有の推進

【講師】味の素株式会社 情報企画部 専任部長 益田 瑞文 様

講演概要

味の素はSNSの導入などコミュニケーションを中心とした社内情報共有基盤の刷新に取り組んでいる。その主な目的は、PCやe-mailの弊害で誰ともコミュニケーションを取らないまま仕事を完結させる「孤職化」を協働的ワークスタイルへと転換させることと、「非構造化データの管理・活用」を推進しながら業務効率と社員同士のコミュニケーションを促進させることである。



味の素ではSNSを単に導入するのではなく、一つの画面上でSNSと文書管理が行えるようにカスタマイズした「チームサイト」を作り上げた。これにより、チーム内の業務に関わる情報のフローとストックが瞬時に把握できるようになり、メンバー全員が業務全体を把握できるようになった。また、大量のメールが飛び交う状況から脱却することができ、業務効率もあがった。企業内SNSを導入したものの活用されないというケースはよく聞かれるが、浸透させるためには、目的や必要性の議論をきちんと行っただけで、適材適所にツールを選択していくべきであり、活用目的に「業務」といった必然性を絡めることが必須である。

このほか、個人のプロフィールやブログのほか社内広報ページが一つにまとまった「ポータルサイト」や、ファイルサーバ、チームサイト、イントラを対象に社内文書などを横断的に検索できる機能「エンタープライズサーチ」を設け、必要なときに必要な情報にアクセスできるようにすることで、業務の効率化だけでなく、社員同士の接点を生み出すことにも成功している。

現在、多くの方がSNSを利用しているが、企業のSNSの活用度合いは現段階ではまだ低い。企業は、個人の活用レベル以上にITを活用していかなければならないと考えているが、その活用すべき領域の一つが「SNS」だと思ふ。今後も協働のプロセスや成果、人とのつながりややり取りを可視化かつ一元化できるよう、社内情報基盤の刷新を推進し、最終的には味の素グループ企業全体へ広めていくことを目指している。

参加者の声

- 当社でも新しいポータルサイト、文書管理システム等を導入しようと検討しているため、非常に参考になりました。SNSは企業文化とモチベーションの維持が重要だと感じました。
- 導入背景も詳しく説明していただき、その必然性がよくわかりました。また実物を使ったデモのおかげで理解が進みました。講師のプレゼンテーションが巧みでした。
- 情報共有の方法としては革新的だと感じます。当社のこの分野は、かなり遅れています。
- ワークスタイルの分析が非常に参考になりました。明確にコミュニケーションのあり方に目的を持たせていることと、デモのポータルの軽さはある関係があるのかと思い、興味深かったです。
- 情報管理の仕組みの参考になりました。味の素の従業員の情報リテラシーの高さがうらやましいです。



講演概要

ローソンは、店舗と本部をつなぐ店舗指導員(SV)の業務を経営指導に特化させることで、日々変化する市場環境に迅速に対応できる強いチェーンづくりを目指している。

その施策の一環として2012年8月に全国約1,200名のSVにタブレット端末を導入した。PCと同じように業務日報の作成や勤怠管理などの申請業務が行えるため、SVはいつでもどこにいても情報を共有でき、業務の効率化が図られている。タブレットの導入によりSVが情報収集を効率化させ、店舗に対してより迅速で的確な経営指導ができるように推進している。

SVのタブレット導入に先立ち、2012年3月から複数店舗を経営するマネジメントオーナー(MO)へ実験的に導入したところ、様々な効果が表れている。「TV会議」を使いリアルタイムに店舗へ指示を出すことで、店舗間の情報格差から生まれていた取り組みのバラつきがなくなり、統一感のある売り場づくりができるようになった。また、どの商品がどのように売れているか、どうしたら売れたかといったタイムリーな情報のやり取りを店舗は発注の判断材料にし、売れ筋商品の仕入れ量アップに役立てている。こうしたタブレットのツールを活用することで、店長は他店の情報収集や売り場の改善計画など重点課題に取り組めるようになった。

今後もSVやMOがマネジメント能力を十分発揮できるよう、業務の標準化・効率化に向けてタブレット機能のバージョンアップを検討している。



参加者の声

- タブレット端末の導入を検討している最中なので、事例など非常に参考になりました。
- 業容の多角化によるSV業務の負荷と質に対して、技術のポテンシャルを存分に活かし、モビリティを高めた情報提供を行うことで無理、無駄を排除していくというソリューションは、当社におけるセールスマンの業務改革においても大変参考になりました。
- タブレットの活用事例や取組が情報収集できよかったです。
- タブレットを配られた社員が使い方を具体的にイメージできるかどうかポイントだと思います。
- 目的を明確に導入している点が素晴らしいと思いました。ROI(投資利益率)を出すことが非常に困難になりがちなところ、しっかりと結果を測定できている点がよかったです。
- 当社より数年先進んでいる事例を伺い、大変刺激を受けました。
- いろんな業種の方とお話ができて参考になりました。



イノベーションセミナー2012

ワークショップのまとめとして、イノベーションセミナーを開催しました。第一部ではコマツの坂根正弘会長に大胆な経営構造改革の断行とトップリーダーシップについて講演いただき、第二部ではグローバルビジネスを支えるITについて日産自動車と東京海上ホールディングスの事例を紹介いただきました。 ※社名、役職は開催当時

テーマ | 躍進企業の挑戦～イノベーションが切り拓く未来

日 時 2013年2月4日(月) 15:00～18:00
会 場 ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)
参 加 者 約100名(ワークショップ参加者、FIF会員など)

プログラム

- **第一部** 特別講演 **「グローバル競争に勝ち抜く企業を目指して」**
 コマツ 取締役会長 **坂根 正弘 様**
- **第二部** パネルディスカッション **「グローバルビジネスを支える強いITのつくり方」**

【パネリスト】	日産自動車株式会社 グローバル情報システム本部 IS 資源管理部 部長 (兼)コネクテッドビークルシステム部 部長	金子 淳史 様
	東京海上ホールディングス株式会社 執行役員 IT企画部長	澁谷 裕以 様
【コーディネータ】	フューチャーアーキテクト株式会社 取締役 副社長	安間 裕

講演概要

日本がグローバル競争を生き残っていくためには、企業の活性化が不可欠だ。企業は国に頼るだけでなく、自社の強みや弱みを整理し、分析することが求められている。それゆえにリーダーの役割は非常に大きい。リーダーには世界の動きや物事の大局、問題の本質を自分の目で確かめてもらいたい。また、自分の判断や考えを言葉できちんと伝え、さらにはその言葉を自分自身の行動で示すことが大切だ。そうすれば自ずと社員はついてくる。言葉の溢れる会社は強いということを忘れないでほしい。



社会の最前線

「社会の最前線」は、小中学生を対象にした一日職業体験プログラムです。現場で働く人びとやトップとの対話、現場体験等をつうじて社会のしくみや働くことの楽しさを体感することを目的としています。2012年度は「首都高の最前線」(首都高速道路株式会社共催)、「物流の最前線」(佐川急便株式会社共催)、「エネルギーの最前線」(JX日鉱日石エネルギー株式会社協力)を実施しました。

コンセプト

「働くカッコいい大人に会いにいこう！」

社会の “しくみ”の実感

企業や団体で仕事の実体験をすることによって、その成り立ちや役割を知るとともに、いままで気づけなかった社会の“しくみ”を実感する。

社会人として あるべき姿の模索

トップとの対話やふだん接することの少ない社会人とのふれあいをとおして、社会人としての理想像やリーダー像、将来の夢をより現実的に思い描く。

働くことの楽しさや やりがいを体感

学校や家庭とはひと味違う、オフィスや工場での様々な体験をもとに、社会で働くことの楽しさややりがいを体感する。

プログラムの特色

「社会の最前線」は、参加者一人ひとりが“体験すること”を大切にしています。そのため参加人数は10~20名に限定し、受入企業・団体の皆様とともに、以下を特色としたオリジナルのプログラムを企画しています。

★ 企業・団体のトップと対話、ふれあい

ふだん接する機会が少ない企業・団体のトップの方々のお話をきいたり、直接質問したりすることで、仕事への情熱や経営に対する姿勢を学ぶ。

★ 外部には非公開の場所やしくみの見学

関係者以外には公開することのない研究所やシステムなどを見学し、その企業・業界における最先端の技術やしくみにふれる。

★ 現場での職業体験

店舗やオフィスで実際に行われている業務を大人といっしょに体験しながら、働いている人の想いやプロの仕事を肌で感じる。

首都高の最前線

首都高速道路株式会社とは初めての実施。シールドトンネルや交通管制室の見学、高速道路の点検作業の体験をとおして、首都圏の大動脈である首都高について学ぶプログラム。

- コンセプト**
- 暮らしを支える首都高の「つくる」「つかう」「まもる」技術を体験する
 - 首都圏の大動脈として社会で果たしている役割を理解する

日時 2012年3月27日(火) 9:50～16:30

会場 首都高速道路株式会社 大橋連結路シールドトンネル(東京都目黒区)
交通管制室(西東京管理局・東京都千代田区)

参加者 小学5、6年生の計17名

- 内容**
- ① 中央環状品川線大橋連結路シールドトンネル工事の現場を見学
 - ② 大橋換気所屋上の自然再生緑地「おおはし里の杜」を見学
 - ③ 交通管制室にて交通管制システムを見学
 - ④ 高所作業車による橋梁点検デモ、鉄筋探査やコンクリート打音調査の体験
 - ⑤ 橋本圭一郎社長からのメッセージ、子どもたちとの意見交換

協力 一般財団法人首都高速道路技術センター、首都高技術株式会社

後援 品川区教育委員会



子どもたちは首都高にとっても興味があり、歴史などもよく知っていて感心した。利用者の「安全・安心・快適」を守るために、陰で多くの人たちが仕事をしていることをわかってもらえたのではないかと思います。今後もいろいろなことに興味を持ち、その活躍が将来の日本の発展につながっていくよう心から期待している。

首都高速道路株式会社 会長兼社長(当時)

橋本 圭一郎 様



物流の最前線

制服に身を包んでの配達・集荷体験やトラックの見学などをつうじて、社会を支える物流について学ぶプログラム。5回目の開催。

コンセプト ● 配達・集荷の実習などを体験しながら物流のしくみを知り理解を深める

日時 2012年3月28日(水) 10:00～16:00

会場 佐川急便株式会社 本社 東京本部(東京都江東区)

参加者 小学5、6年生の計18名

内容

- ① 「物流のしくみ」や「集荷・配達」「送り状のひみつ」について学習
- ② 天然ガストラックの排気ガス実験、大型トラックなどの乗車体験
- ③ 制服を着た子どもたちによる荷物の配達・集荷の実習
- ④ カスタマーサービス業務の体験、冷凍・冷蔵庫の見学
- ⑤ 栗和田栄一会長との質疑応答

後援 江戸川区教育委員会、品川区教育委員会



仕事というものは、自分一人ではできない。互いに助け合い、支え合いながらチーム一丸となってやるのが大事だと、この体験をとおして感じてもらったのではないだろうか。学校の延長線上に社会がある。子どもたちが成長していずれ社会に出たときに、今回の経験が何らかの助けや気づきになればと願っている。

佐川急便株式会社 会長
栗和田 栄一 様



エネルギーの最前線

次世代エネルギーの実験や製油所の見学をとおして、社会や産業を支えるエネルギーについて学ぶプログラム。6回目の開催。

- コンセプト**
- 石油を中心に暮らしや産業の発展を支えるエネルギーについて学ぶ
 - 地球環境との調和と次世代エネルギー開発について学び体験する

日時 2012年7月27日(金) 10:00～16:30

会場 JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所、根岸製油所(神奈川県横浜市)

参加者 中学1～3年生の計22名

- 内容**
- ① 中央技術研究所にて石油精製プロセス・実車試験の見学
 - ② 若手研究者から参加者へメッセージ
 - ③ 「燃料電池」の仕組みの学習と発電実験、燃料電池車の試乗
 - ④ 国内最大級の根岸製油所で原油からガソリン・灯油をつくる装置などを見学
 - ⑤ 内田幸雄副社長からのメッセージ、子どもたちとの質疑応答

後援 川崎市教育委員会、品川区教育委員会、横浜市教育委員会



エネルギーは食べ物と同じように、日々生きていくために欠かせないものであり、私たちの生活と切り離せない問題であることを、今回の見学をつうじて理解してもらえたのではないかと思います。日本が抱えるエネルギー問題を将来は自分たちが解決するんだという意気込みで、今後いろいろなことに挑戦してほしい。

JX日鉱日石エネルギー株式会社 副社長
内田 幸雄 様

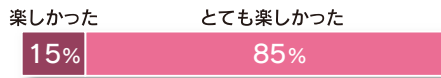


社会の最前線 アンケート結果

FIFはプログラム終了後、参加者と保護者を対象にアンケートを実施しています。その結果をもとに、子どもたちにとってより有意義なプログラムになるよう内容の見直しや運営の改善を行っています。いただいたメッセージや感謝の言葉は、私たちスタッフの励みにもなっています。参加者の感想を紹介します。

(回答者数54名、回答率100%)

質問1 参加してみてどうでしたか？



質問3 訪問した企業の仕事内容や社会で果たしている役割がわかりましたか？



質問2 どんなことがためになりましたか？

◆首都高の最前線

- ▶ 高所作業車に乗って道路をトンカチでたたいて検査するのがおもしろかった。(小5男子)
- ▶ シールドマシンを組み立てるのに2カ月、一日9cmしかほり進めない中での作業はすごいと思った。(小5男子)
- ▶ 社員と同じ作業ができてうれしかった。(小6男子)
- ▶ 首都高は緑の下の力もち！すごいと思った。(小6女子)

◆物流の最前線

- ▶ 配達と集荷が勉強になった。はんこを押すのがおもしろかった。(小5男子)
- ▶ ふだんはできない貴重な体験ができた！(小5男子)
- ▶ 栗和田会長の秘密が聞いて楽しかった。(小6男子)
- ▶ 配達は緊張したけど、終わったあと「やったんだ」という実感が残った。もう一度やりたい。(小6女子)

◆エネルギーの最前線

- ▶ 楽しみながら深く知ることができた。(中1男子)
- ▶ 製油所でどのようにして原油からガソリンなどをつくっているのかを学べた。(中2男子)
- ▶ 燃料電池やその他のエネルギーの未来がわかった。(中3男子)
- ▶ 中学のうちにやっておくべきことを教えていただいた。(中3女子)



質問4 初めて知ったこと、心に残った言葉はなんですか？

◆首都高の最前線

- ▶ シールド工法があることを初めて知った。(小5男子)
- ▶ 社員の方の地道な作業。(小5男子)
- ▶ 橋本社長の「社員一人ひとりが一生懸命がんばっている」という言葉に感動した。(小6男子)
- ▶ たくさんの道路を監視するのは大変そうなのに、交通管制室には8人しかいないことに驚いた。(小6女子)

◆物流の最前線

- ▶ 自動仕分け機で、仕分けをしていること。(小5男子)
- ▶ 栗和田会長の会社への思いがすごかった。(小5男子)
- ▶ 一つの荷物を届けるために、たくさんの人や機械が動いていることを初めて知った。(小5女子)
- ▶ PDTという機械を使えば荷物がどこにあるのかわかること。(小6女子)

◆エネルギーの最前線

- ▶ 燃料電池が簡単なくみで電気をつくっていることを初めて知った。(中1男子)
- ▶ 安全についてとてもよく考えているところ。(中1男子)
- ▶ 内田副社長の「一次エネルギーは贈り物」という言葉に感動した。(中1男子)
- ▶ 製油所の面積がすごく大きくて驚いた。(中2男子)

物流の最前線



首都高の最前線



質問5

今後もこのような職業体験に参加したいですか？

参加したい
35%

ぜひ参加したい
65%

質問6

次回参加する後輩やお友だちにメッセージを。

◆首都高の最前線

- ▶ 何もわからなくても首都高のすごさがわかるすごいプログラムです。(小5男子)
- ▶ 一生に一度のチャンスだよ。楽しんで！(小5女子)
- ▶ おもしろいぞ!! 首都高は!!(小6男子)
- ▶ 話をよく聞けば聞くほどいろいろなことが見えてくるので、思いっきり楽しんでくださいー!(小6男子)
- ▶ ぜったい応募したほうがいいよ。(小6女子)

◆物流の最前線

- ▶ たくさん勉強ができて色々なことが楽しめるので、一石二鳥です。(小5男子)
- ▶ SAGAWAにはすごいことがたくさんあるよ。(小5女子)
- ▶ 予習をしておくといいよ!(小6男子)
- ▶ とにかく楽しいので、まずは応募してください!!(小6女子)

◆エネルギーの最前線

- ▶ 一言も聞き逃さずメモしたほうがいい。(中1男子)
- ▶ 様々な視点からエネルギーについて教えてください。(中2女子)
- ▶ たくさん見て、聞いて、吸収してください!(中2男子)
- ▶ 理科で苦手分野がある人はここで学ぶこと!(中3男子)
- ▶ メモのとりがいいのある内容のつまった一日でした。みなさんも楽しんでください!(中3女子)

エネルギーの最前線



保護者の声



◆首都高の最前線

- 普段立ち入ることができないトンネルや管制室の見学のほか検査体験、またトップの方とお話をする機会など、自分の目で見て触って、聞いての体験はとても楽しかったようです。
- 帰りの電車の中で驚いたことなどを熱心に話しはじめ、今までの見学の中でも一番楽しかったと目を輝かせていました。
- 「安全に走る」ために、自分たちが知らないところで大勢の大人たちが支えていることがわかったらしく、将来、自動車関連の仕事を希望する息子にとって、またひとつ夢が広がりました。
- 仕事とは生活の手段だけでなく、社会に貢献することだと深く理解したようです。

◆物流の最前線

- 企業のトップの方とお話できたり、実際にトラックに乗せていただいて配達を体験したり、伝票のシステムを教えていただいて、娘はすっかり「佐川急便」の一員になって帰ってきました。
- 物を送る、受け取る体験だけでなく、名刺交換の仕方も教えてもらいました。子どもながら社会の一員として扱っていただいたことで、思った以上に実りの多い一日になったようです。
- 実際の企業での体験は、子どもにとっても楽しく、机上の勉強以上の何かを得たのではと思います。
- この体験が直接職業選択に結びつくかどうかわかりませんが、きっと素敵な思い出として、心の中に残っていくと思います。いろいろな体験をとおして、自分の進む道を決めていってくれたらと思います。

◆エネルギーの最前線

- 勉強が苦手なうちの子が、帰ってきたら見学のことを目をキラキラさせながらたくさん話してくれました。
- 石油の大切さはもとより、たくさんの分野の技術開発を手掛けていることや、身近な生活の中で実用化されてきているエネファームなどの技術も学ぶことができ、多くの収穫があったようです。
- 開発する仕事のすごさを実感したらしく、「将来何らかの開発をする仕事したい」と言っています。
- 車でガソリンを入れに行ったとき、ガソリンスタンドに来るまでの流れを話してくれました。エネルギーを作りだすためにたくさんの人が働いているということを知り、エネルギーの大切さを実感したようです。
- 視野が広がったように思います。

今日体験したこと、学んだこととともに、JX日鉱日石エネルギーがどんな会社か、エネゴりんくんに教えてあげよう!



エネゴりんく、
JX日鉱日石エネルギーって、

安全第一、新しいエネルギーを作りだす環境のづくり、
全国に広がっている、発電所がたくさんある
遠くの林にも暮らしている、空気がきれい

な会社だね!



ITらぼ

「ITらぼ」は、ITにフォーカスしたプログラムの総称です。パソコン組み立てやロボットカーレースなどのグループワークをつうじてITのしくみを知り、その可能性を体感することで、イノベーションを生み出す大人への成長を支援することを目的としています。2012年度は多くの子どもたちにITのおもしろさを気軽に体験してもらおうと、オリジナルの学習コンテンツを作成・公開しました。

コンセプト

「イノベーションを生み出す大人になろう！」

“使う側”から “創る側”へ

自分の手でつくりあげる達成感を味わうことで、ITを“使う側”から“創る側”に立つ喜びや楽しさを体感する。

ITへの 興味の喚起

ITのしくみを知り技術のおもしろさやデジタルの可能性を感じることで、ITを身近に感じ、理数系分野への興味を喚起する。

ITリテラシー の向上

プログラミングや画像編集などの体験をとおして、想像力や表現力、ITリテラシーを高める。

子ども向け学習コンテンツ「コンピュータの言葉を学ぼう」

ITの基本であるデジタルの考え方やしくみをゲーム感覚で学べるコンテンツ。2012年度に全コンテンツを公開しました。

- コンセプト**
- より多くの子どもたちにITのおもしろさや可能性を楽しみながら体感してもらい、ITへの興味を喚起する。
 - ITの基本であるデジタルの考え方やしくみを理解してもらう。

URL <http://fif.jp/kids/manabo>

学習の流れ

第1弾 コンピュータの言語を知る

第2弾 2進数の考え方を理解する

第3弾 2進数の応用を学ぶ

※第1弾、第2弾は2011年度に公開

第3弾

「時限爆弾を解除せよ」ゲームをとおして、2進数の応用を学ぶ
(公開日:2012年4月23日)



2007年度のイベントに参加した子どもたちに

5年後の追跡アンケート調査!



「今でも心に残っていることは?」「イベントに参加して生活や進学に何か変化はありましたか?」など質問しました。調査の結果、回答者の約半数がその後の考え方や生活に影響があったことがわかりました。回答の一部を紹介します。(回答者数37名、回答率45%)

医療現場の最前線 (聖マリアンナ医科大学)

07年7月24日実施

- ◆CGで人体内を見たり、自分の肝臓をエコーで見たことで、前よりもからだのことを考えるようになりました。
- ◆より強く医療の道に進もうと思い、志望校を医療関係の学部になりました。



エネルギーの最前線 (新日本石油株式会社)

現: JX日鉱日石エネルギー株式会社) 07年8月8日実施

- ◆僕の中で中1の夏の出来事として強く心に残っています。中学生の頃にあのような貴重な機会にめぐりあえたことに感謝しています。
- ◆エネルギー問題や世界情勢の中での石油問題に目が向くようになりました。



パソコン組み立て教室 (品川区立立会小学校)

07年1月13日実施

- ◆パソコンの中身がすごく精密だったけれど、仕組みは意外と単純で簡単に組み立てられた。
- ◆小学生の時から情報工学にふれることはとても良いことだと思います。いまは工学系の学校に進学し、PCに関するコースに進んでいます。



物流の最前線(佐川急便株式会社)

07年3月29日実施

- ◆自分で荷作りした荷物が、自宅に届いたのに感動した。
- ◆学校では決して学ぶことのできない素晴らしい体験ができた。普段の生活のちょっとしたことにも疑問を持つことの大切さを学んでほしい。



コンビニエンスストアの最前線 (株式会社ローソン)

07年7月30日実施

- ◆お客様への挨拶練習が心に残っている。普段使う「ありがとう」とは気持ちに違いがあることを当時小学生だったが、すごく感じた。
- ◆ローソンに行くと「おにぎりが美味しい」と言っていたのを思い出し、よく買います。



カーデザインの最前線 (トヨタ自動車株式会社)

07年8月21日実施

- ◆未来の車に乗るのが、すごくワクワクした。クレイモデルをつくったことも忘れません。
- ◆車に関わる仕事がしたいという気持ちが強まりました。



ロボットカーレース

(品川区立小中一貫校日野学園) 07年9月8日実施

- ◆ロボットやプログラミングについて興味を持つようになりました。
- ◆本当に本当に楽しかった! 機会があったら高校でもやりたいです!

ロボットカー



スマイルプロジェクト

FIFは東日本大震災の復興支援の取り組みとして「スマイルプロジェクト」を立ち上げ、「子どもたちの笑顔で東北を元気にしよう!」をコンセプトに活動しています。今年度は宮城県石巻市のNPO法人「にじいろクレヨン」と協力して、石巻の仮設住宅や周辺で暮らす子どもたちを対象にレクリエーション活動を行ったほか、講演会や交流会も開催しました。

活動方針 & 活動内容

「子どもたちの笑顔で東北を元気に!」

石巻ボランティア

子どもたちの心のケアを目的にレクリエーション活動を実施



講演会・交流会

講演会や交流会をととして被災地の現状を知るとともに情報交換を促進



NPO運営支援

地元のNPO団体が活動を継続して行えるように運営面をサポート



石巻ボランティア 新企画

NPO法人「にじいろクレヨン」協力のもと、月に一度、石巻市内の仮設住宅を訪問し、子どもたちと一緒にレクリエーション活動を行いました。また被災現場を視察し、仮設住宅で暮らす人たちから現状を伺って、石巻のいまを知るとともに交流を図りました。

- 目 的**
- **心のケア** 子どもたちの心のケアを主眼にコミュニケーションを図る
 - **現状を知る** 被災現場を視察し、住民の方から話を聞くことで現状を知る
 - **記録に残す** 石巻の復興状況を定点観測し、記録に残す

日 時 2012年3月～11月(1泊2日、全9回)

会 場 宮城県石巻市内の仮設住宅 のべ23カ所
(南境第4・7仮設住宅、旭化成パワーテハイス社有地仮設住宅、あけほの集会場、蛇田北部第1・2仮設住宅)

参加者数 子どもたち: のべ250名
ボランティア: のべ51名

① ボランティア活動



② 現地視察・定点観測



定点観測: 日和山からの景色

③ 講 演



ボランティア参加者の声

- 貴重な経験ができました。理解していたつもりでも目の前で現実を見ると印象が違います。
- 被災者から当時の状況など生の声が聞けてよかったです。ボランティア活動にも自然と気持ちが入りました。
- あどけない笑顔で遊んでいた子どもも、つい最近まで夜泣きが続いていたということを知り、心に負った傷の深さは計り知れないと思いました。
- 現地を視察して、実際の被害状況と復興のスピードの遅さを痛感しました。
- 復興というと「原状回復」的な発想になりがちですが、にじいろクレヨンの活動には新たなもの、より良いものをつくり出そうという「前向きさ」を感じました。
- 出会った方々は積極的に3.11当日の話をしてくださいました。それぞれが自分の言葉で生き残りをかけた壮絶な話を語ってくれました。生き残った方々の「語り継ぐ」という使命感、自発的な義務感を感じました。
- コミュニティの形成やコミュニティ全体で子どもたちを守る、育成するという点においては、実は東京など大都市のほうが崩壊しているのではないのでしょうか。にじいろクレヨンの活動は石巻に限らず、全国各地に必要とされる活動になる、新たな可能性を感じました。
- 日本人として、現地に行って自分の目で見ておいたほうが良いと思います。

講演会・交流会

新企画

にじいろクレヨン代表の柴田滋紀氏の講演会や会員企業を対象にした交流会を定期的を開催しました。活動内容や被災地の現状を知ってもらい、意見交換をして交流を深めました。このほか東北の美味しいものを紹介するイベントも行いました。

■ 講演会

- ・日 時 2月21日(火)
8月27日(月)の計2回
- ・場 所 フューチャーアーキテクト株式会社 (東京都品川区)
- ・参加者 計40名



■ 交流会

- ・日 時 8月30日(木)
- ・場 所 アセンティア株式会社 (宮城県仙台市)
- ・参加者 会員や大学生ら計11名



■ 物産展

- ・日 時 10月12日(金)
- ・場 所 フューチャーアーキテクト株式会社 (東京都品川区)
- ・参加者 約80名



NPO法人運営支援

現地のNPO法人が長期的、自律的な活動できるように運営支援を行っています。今年度は、にじいろクレヨンを対象にFIFのこれまでのノウハウを提供しました。

■ 支援内容

- ・コミュニケーション基礎
- ・チームビルディング実践
- ・ボランティアリーダー育成
- ・講演会の開催支援
- ・年間計画、体制の相談
- ・事務局運営、管理の見直し



FIFの復興支援活動には“本気度”を強く感じる。毎月石巻までボランティアに来てくれるだけでなく、運営に対するアドバイスや組織として足りないところを都度サポートしてくれる。非常に有り難い存在であり、感謝している。



NPO法人「にじいろクレヨン」代表
柴田 滋紀 様

東京へようこそ! 1泊2日ツアー (首都高速道路とのコラボ企画)



春の「首都高の最前線」がご縁で首都高速道路株式会社より依頼を受け、首都高開通50周年を記念して8月に実施された子ども支援プロジェクト「東京へようこそ! 1泊2日ツアー」に運営協力しました。

夏休みの楽しい思い出をつくってもらおうと、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市の親子40名を東京へ招待しました。

FIFは初日の運営サポートを行いました。

- 日 時 2012年8月20日(月)～ 8月21日(火) 1泊2日
- 招待者 宮城県石巻市の小学4～6年生とその保護者 20組40名
- 内 容 1日目: 首都高の施設見学
交通管制室、大橋連絡路シールドトンネル工事の現場
大橋換気所屋上の自然再生緑地「おおはし里の杜」見学
2日目: 首都高を使って東京観光 (東京タワーや浅草など)



ホームページリニューアル & facebook ページ開設

FIFのホームページを2012年11月にリニューアルしました。トップページでは会員企業向け、キッズ向け、復興支援の各活動の最新情報をお知らせしています。これに先立ち2月には、facebookにFIFのページを開設しました。イベントの準備風景や当日の様子、事務局の近況など日々のトピックを発信しています。ぜひアクセスしてください。

ホームページ

<http://fif.jp> | 「会員企業向け」と「キッズ向け」のサイトを統合し、デザインを刷新しました。



子どもたち向けの学習コンテンツや復興支援活動のページも。ぜひご覧ください!

イベントの詳細ページでは、写真やダイジェスト映像で当日の様子を紹介しています。

facebook

<http://www.facebook.com/fif.2006> | イベント情報やキャンペーンのお知らせなどを随時掲載しています。



「いいね!」をお待ちしています。

プレスクリッピング集

職業体験プログラムや復興支援活動を中心に、新聞やテレビなど19のメディアで計33本取り上げられました。
掲載リストは以下のとおりです。

	日付	媒体	見出し
	1.27	日刊建設工業新聞 4面	「首都高の最前線」を学ぼう～春休みに1日職業体験
	1.30	日刊建設産業新聞 10面	1日職業体験を実施～首都高、FIF 小学5・6年生を対象に
	2.02	リセマム	小5・6生対象、佐川急便の職業体験「物流の最前線」3/28
	2.05	読売新聞朝刊 30面	首都高で職業体験～小5、6年生対象
	2.10	日刊建設通信新聞 3面	小5・6年生に向けて1日職業体験を企画
	3.27	東京メトロポリタンテレビジョン	TOKYO MX NEWS「首都高の点検技術 子どもたちが学ぶ」
	3.28	日刊建設工業新聞 4面	「つくる」「つかう」「まもる」技術を学ぶ～小学5、6年生が1日職業体験
	3.29	LNEWS	佐川急便／職業体験イベントを実施
	3.29	日刊建設産業新聞 8面	首都高初の子供向け職業体験～高所での点検作業も
	3.30	朝日小学生新聞 3面	「たいた音で強度がわかるなんて」首都高で職業体験プログラム
	3.30	日刊建設通信新聞 8面	児童17人が高速道路建設・維持管理学ぶ
	3.30	Logistics System Station	佐川急便、物流の職業体験イベントを実施
	3.30	Logistics Today	佐川急便、小学生向け職業体験イベントを実施
	4.04	日刊建設工業新聞 12面	都市インフラの最前線を学ぼう～小学生対象に春休み職業体験
	4.09	輸送新聞	小学生対象に職業体験イベント共同開催～佐川急便
	4.10	カーゴニュース	首都高速道路が職業体験イベントを開催
	4.14	YOMIURI ONLINE	首都高の安全を守る～小学生が点検業務を体験
	4.14	読売新聞夕刊 8面	首都高の安全を守る～小学生が点検業務を体験
	5.24	リセマム	5年前の職業体験「今でも心に残っている」92%
	5.25	マイナビニュース	職業体験イベント参加の小中学生の半数が「今後の考え方や進路に影響」
	6.06	リセマム	中学生の1日職業体験、横浜で製油所見学や燃料電池の実験などを実施
	6.08	神奈川新聞 9面	中学生の1日職業体験参加者募集
	7.03	毎日新聞朝刊 24面	製油所で中学生が職業体験
	7.28	毎日新聞朝刊 24面	エネルギー技術、中学生22人見学～横浜のJX研究所
	7.28	毎日jp	職業体験：エネルギー技術、中学生22人見学～横浜のJX研究所
	8.10	リセマム	石巻市の親子を首都高の施設見学などに招待、首都高開通50周年記念イベント
	8.11	読売新聞夕刊 10面	燃料電池の仕組み学ぶ～二酸化炭素出さないエネルギー
	8.11	YOMIURI ONLINE	燃料電池の仕組み学ぶ～二酸化炭素出さないエネルギー
	8.21	日刊建設産業新聞 8面	被災地小学生20組を招待～交通管制システムなど見学
	8.21	日刊建設工業新聞 4面	東京1泊2日ツアー開催～被災地の子どもたち招待
	8.23	読売新聞朝刊 28面	石巻の児童・保護者 首都高管制室見学
	8.25	旬刊高速道路 11面	石巻市の小学生と保護者20組41人を東京へ招待
	11.24	河北新報朝刊 13面	被災児童らに遊びの場提供 石巻でイベント

首都高の最前線

読売新聞 2012年4月14日付

首都高の安全を守る

小学生が点検業務を体験

首都高道路の安全を守る仕事などについて学ぶ、小学生対象の職業体験プログラムが、3月下旬に初めて行われました。その様子を取材しました。

プログラムは小学5、6年の約20人が参加。子どもたちに働く楽しさを知ってもらう活動に取り組み「フューチャーイノベーション フォーラム」と、首都高道路株式会社と、首都高道路株式会社との共催です。同社西東京管理局（東京・千代田区）などを見学しました。

「このほか、超音波を用いて鋼材の内部にある傷を調べたり、紫外線を当てると色が変化する物質を使って鋼材の表面に傷を調べる作業も体験しました。」

見学後、同社の橋本圭一郎社長が、参加した小学生の質問を受けました。首都高の未来について聞かれると、「首都高は働き過ぎたが、健康な状態で、次の世代に引き継ぎたい」と答えていました。地道な作業の積み重ねが、安全を支えているのだと思えました。

△ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班「高2・江田翔太、高3・高橋美桜記者」



ハンマーで首都高の高架構をたたいて異常がないかどうか調べるジュニア記者

1都3県の約300キロを結ぶ首都高は、高速度を見回る日常点検、地震や台風の際に異常がないか確認する臨時点検、5年に一度の定期点検が行われています。

同社の池谷勝之・広報室長は「点検で大切なのは、近くまで行き、目で見て、触ること」と話します。塗装がはがれたり、ボルトが外れたりした所などを重点的に点検するそうです。

「私たちが、高所作業車に乗って同管理局敷地内にある首都高の高架構を点検させてもらいましたが、ハンマーでコンクリートをたたきます。中に隙間がある部分は、乾いた高い音がするそうです。様々な大きさの隙間を設けたコンクリートの模型をたたくと、簡単に音の違いを聞き分けられました。」

「振動が見つかったら、危険度の高い場所から優先して修復します。」

建設工業新聞 2012年4月4日付

朝日小学生新聞 2012年3月30日付

都市インフラの最前線を学ぼう

小学生対象に春休み職業体験

24時間365日体制の活動に感心

首都高道路株式会社

「たたいた音で強度がわかるなんて」

東京首都高で職業体験プログラム

「この音はコンクリートの強度を測るための音です。音が低いほど強度が弱いです。」

「ハンマーでたたいて音の違いを聞き分けました。」

「この音はコンクリートの強度を測るための音です。音が低いほど強度が弱いです。」

「ハンマーでたたいて音の違いを聞き分けました。」

建設工業新聞 2012年3月28日付

建設産業新聞 2012年3月29日付

TOKYO MX NEWS 2012年3月27日放送

首都高の点検技術 子どもたちが学ぶ

「音の検査という」ごまめなどまでやっていてすごかった

「つくる」「つかう」「まもる」技術学ぶ

首都高速会社

小学校5、6年生が1日職業体験

「つくる」「つかう」「まもる」技術学ぶ

首都高速道路株式会社は、首都高道路株式会社と、首都高道路株式会社との共催です。同社西東京管理局（東京・千代田区）などを見学しました。

初の子供向け職業体験

高所での高架構作業も体験

「この音はコンクリートの強度を測るための音です。音が低いほど強度が弱いです。」

「ハンマーでたたいて音の違いを聞き分けました。」

物流の最前線

輸送新聞 2012年4月9日付

小学生対象に
職業体験イ
ベント共同開催
佐川急便

佐川急便（辻尾敏明社長）は3月28日、フューチャーイノベーションフォーラム（FIF）と共同して東京・江東区の同本社東京本部で職業体験イベントを実施した。小学生などを対象に、体験を通じて社会のしくみや働くことについて考えてもらうことを目的として、佐川急便とFIFが共同で企画・運営している社会貢献活動で、今回が5回目の開催。



職業体験の様子

FIFはフューチャーイノベーションを幹事会社とする教育等支援団体で、2006年に発足。現在750の協力企業・団体とその社員1200人を会員として、職業体験や出張授業などを実施している。当日は抽選で選ばれた

小学5、6年生の18人が佐川急便の制服を着用し、荷物の配達・集荷や営業店での業務などを体験した。また、子どもたちに未来のリーダーを目指してもらうためとして、佐川急便の栗和田榮一会長へ、直接質問できる時間を設けた。

LNEWS 2012年3月29日付

佐川急便/職業体験イベントを実施

2012年03月29日

佐川急便とフューチャーイノベーションフォーラム(FIF)は3月28日、佐川急便本社東京本部職業体験イベントを実施した。

<集荷・配達業務実習>



<営業店での業務体験>



5回目の開催となるイベントで、体験を通じて社会のしくみを学び、働くことや職業について考えてもらうことを目的に、他企業と連携し社会貢献活動を行うFIFと佐川急便が共同で企画・運営したもの。

当日は100名を超える応募者のなかから抽選で選ばれた小学5、6年生18名が佐川急便の制服を着用し、荷物の配達・集荷や営業店での業務などを体験した。

子どもたちには未来のリーダーを目指してもらうため、佐川急便会長の栗和田榮一へ直接質問できる時間を設けた。

参加者からは「配達・集荷実習が緊張したけど楽しかった」「会長と名刺交換が上手にできてうれしかった」といった感想や「会長とはどのような仕事なのか」「5万人の一番上に立つ思いは？」といった質問が数多くあがり、栗和田会長からのメッセージを聞く表情は真剣そのものだった。

Logistics Today 2012年3月30日付

佐川急便、小学生向け職業体験イベントを実施

Posted By LogisticsToday On 2012/03/30 @ 3:18 PM category [セミナー, トピックス](#)

SGホールディングスは29日、フューチャーイノベーションフォーラムと佐川急便が28日佐川急便の東京本部で、5回目となる職業体験イベントを実施したと発表した。イベントはフューチャーイノベーションフォーラムと佐川急便が共同で企画・運営した。

当日は100人を超える応募者の中から、抽選で選ばれた小学5、6年生18名が佐川急便の制服を着用し、荷物の配達・集荷や営業店で実際の業務を体験した。



[1]

集荷・配達業務実習の様子

同社の栗和田榮一会長との質問時間で、参加者からは「配達・集荷実習が緊張したけど楽しかった」「会長と名刺交換が上手にできてうれしかった」といった感想や「会長とはどのような仕事なのか」「5万人の一番上に立つ思いは？」といった質問が数多くあがった。

エネルギーの最前線

毎日新聞 2012年7月28日付

エネルギー技術
中学生22人見学
横浜のJX研究所
企業と連携し社会貢

献活動を行う団体「フューチャーイノベーションフォーラム」は27日、横浜市中区のJX日鉱日石エネルギー中央技術研究所（横浜市中央区）で、新エネルギーと燃料電池の仕組みを学び、根



人の中学生が参加。水素と酸素を反応させて電気を生み出す燃料電池の組み立て実験。写真を撮ったのは、燃料電池車に試乗し、研究所内施設と国内最大規模となる製油所を見学した。中学生はメモを取りながら熱心に職員の話聞いた。

【宗岡敬介】

神奈川新聞 2012年6月8日付

情報スポット

●中学生の一日職業体験参加者募集
「フューチャーイノベーションフォーラム事務局」は、7月27日午前10時から開く中学生の一日職業体験プログラム「エネルギーの最前線」の参加者を募集している。JX日鉱日石エネルギーの中央技術研究所（横浜市中央区）で、新エネルギーと燃料電池の仕組みを学び、根岸製油所で原油からガソリンを作る装置を見学する。参加無料、昼食つき。対象は中学生で定員20人。応募は事務局ホームページ内のキッズサイトから。7月8日締め切り。同事務局☎03(5740)5817。



電池車に試乗し、研究所内施設と国内最大規模となる製油所を見学した。中学生はメモを取りながら熱心に職員の話聞いた。

川崎市麻生区の市立麻生中2年、吉竹浩輝さん(13)は「施設の大ささと機械の精密さに驚いた。理科が好きなので将来はこういう仕事に就きたい」と話した。

読売新聞 2012年8月11日付

燃料電池の仕組み学ぶ



研究者に手伝ってもらいながら燃料電池を組み立てるジュニア記者（右から上目）

環境に優しいエネルギーについて学ぶ中学生対象のイベントが、JX日鉱日石エネルギーの中央技術研究所（横浜市中区）で7月下旬に行われました。子どもたちに仕事のやりがい伝える活動をする団体「フューチャーイノベーションフォーラム」が主催し、約20人が参加しました。

二酸化炭素出さないエネルギー

実用化されている家庭用燃料電池を見せられました。都市ガスなどから取り出す水素と、空気中の酸素を使って発電し、家庭電力の一部を賄います。発電時に発生する熱で湯を沸かすこともできるそうです。

実際に実験中の燃料電池自動車に試乗しました。ガソリン車との違いは、排ガスではなく水が出ること。普及までには、水素を供給する施設の整備や、費用の削減などの課題があり、研究が続けられています。

このほか石油を精製する様子や、自動車の燃料やオイルを開発する施設の見学なども行われました。

20代の研究者の方々の話も聞きました。岩崎俊之さん(26)は、中学生の頃、新聞の天気図を見て天気を予想することが好きだったそうです。図書館で気象関係の本を眺めているうちに地球温暖化の本に出会い、環境問題に興味を持ったといいます。

岩崎さんは「この経験が今の仕事につながっていると思う。何かに触れることがあれば大切にしてください」と話していました。

ハヨミウリ・ジュニア・プレス取材班「中1・小黒夏子、中2・飛弾洋佑、高2・佐々木凌記者」

石巻ボランティア

河北新報 2012年11月24日付



被災児童らに遊びの場提供
石巻でイベント
東日本大震災で被災し、なごもたれさまさま

なごもたれさまさまら
遊びの場を創しんであらう
イベント「子どもの遊場
づくり」が23日、石巻
市の被災児童を南郷4回
館であった。

幼稚園小学生ら約20人が
参加。11回選任委員を
つくる社会福祉協議会
体「フューチャー・フォー
ム」(FIF)のボランティア
と「なごもたれさまさま」
が主催。ボランティアは
サリを準備したり、アロ
ック遊びに誘ったりし
た。

FIFでは、遊具のお
給付品を通じて子ども
も楽しめるようにと、こ
ころを比べて、子どもたち
に合った遊具をそろえ
たいと話し合った。

東京へようこそ! 1泊2日ツアー

建設工業新聞 2012年8月21日付

**東京1泊2日ツアー開催
被災地の子どもたち招待**
首都高速会社



首都高速道路株式会社は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

首都高速道路株式会社は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

「なごもたれさまさま」は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

5年後の追跡アンケート調査

リセマム 2012年5月24日

5年前の職業体験「今でも心に残っている」92.9%
2012年5月24日(木) 14時10分



「フューチャー・イノベーション・フォーラム(FIF)」は5月24日、5年前に実施した職業体験プログラムに参加した子どもたちを追跡調査したアンケート調査の結果を発表した。

FIFは、「FIFイノベーションを人と社会と企業のために」というコンセプトのもと、2006年に発足した団体。フューチャー・キネクトを幹事会社とし、2012年2月末現在、約750の協力企業・団体とその社員約1,200名からなる会員組織となっており、会員向けのワークショップをはじめ、子ども向けの職業体験や出張授業などの企画・運営を行っている。

FIFでは、これまで小中学生を対象とした職業体験やIT教室などのイベントを8回開催。参加人数は、のべ1,679名を数えるという。調査は、活動開始から5年が経過した昨年より実施しているもので、プログラムでの体験が子どもたちにどのような影響を及ぼしているかを把握し、今後の企画の改善に役立てることを目的としている。

今回の調査は、2007年度に実施した8つのイベントの参加者を対象に行ったもの。当時小学5年から中学3年生だった参加者のべ83人を対象に、2月24日から3月26日にかけて郵送とインターネットによるアンケート調査を実施し、37人の回答を得た(回答率45%)。

「プログラム参加後、考え方や進路に変化はありましたか?」という質問では、「あった」「なかった」とともに50%という結果となった。

変化があったとする具体例として、「医療現場の最前線」(協力:聖マリアンナ医科大学)の参加者からは、「志望校を医療関係の学部にした」、「からだのことを前よりも考えるようになった」といった意見、「カーデザインの最前線」(協力:トヨタ自動車)の参加者からは、「車に関わる仕事をしたいという気持ちが強まった」、「車についてもっと知りたいという気持ちになった」といった意見、「パソコン組み立て教室」(協力:品川区立立会小学校)の参加者からは、「工学系の学校に進学し、PCに関するコースに進んでいる」、「これがきっかけでパソコン関係の資格を取得した」といった声が寄せられているという。

建設産業新聞 2012年8月21日付

被災地小学生20組を招待

交通管制システムなど見学

首都高速道路は20日、復興の足音を
響かせる被災地の子
どもたちを招待し、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

「なごもたれさまさま」は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

「なごもたれさまさま」は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

「なごもたれさまさま」は、なる直轄子ども支援フ
ラム「なごもたれさまさま」
と連携し、被災地の子
どもたちを東京に招待し
るツアーを開催した。夏
休みの思い出づくりを
兼ね、被災地の子ども
たちを東京に招待し、
被災地の現状を体験し
てもらう。8月21日(土)
、22日(日)の2日間、東
京1泊2日ツアーを開催
した。

フューチャー イノベーション フォーラム

ADD 〒141-0032
東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー15階
(フューチャーアーキテクト株式会社内)

TEL 03-5740-5817

E-mail forum@future.co.jp

ホームページ <http://fif.jp>

facebook <http://www.facebook.com/fif.2006>

